
お花畑の国

～ 泡盛 ～

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

お花畑の国

【コード】

N8074H

【作者名】

〜泡盛〜

【あらすじ】

ある二組の旅人がお花畑に着いたお話

(前書き)

この話は【キノの旅XⅠ】のお花畑の国が原作です

「綺麗だな」

青年は花畑の中から声を出しました
その花畑は、色鮮やかな綺麗な花がどこまでも見渡す限りにありま
した

「そうね」

どこからか返事が聞こえてきました

「レイラは花に関心が無いのか？」

青年は隣にある1台の車に話しかけた

「いいえそんなことないわ、バル」

「そうか、それはよかった」

「なぜ、よかったの？」

「この花畑を独り占めするのは惜しいからね」

「とても、夫婦チエツクな発想ね」

「・・・乙女チツク？」

「それね」

「カメラでもあれば良かったんだがな」

「ええそうね・・・」

「そろそろ行くか」

「ええ」

青年と1台が去るとその花畑にはまるで手を振るかのように風で揺れていました

そこから夏・・・秋・・・冬と越えまた花咲く季節になったとき、
バギーにのった旅人が来ました

一人は腰に刀を差した男性、もう一人は銀髪の少女、白い大きな犬
が一匹
という珍しい旅人でした

「素敵な場所だね」

男が言いましたそれにあわせるように

「素敵ですね」

と、犬が言いました

「ん」

最後に少女がうなずきました

二人と一匹は色鮮やかな花畑を見下ろしてその光景にいたく感激しました

「すばらしいね。こんな景色が見られるのなら放浪の旅も悪くはない……」

そして旅人の男は、これほどすばらしいものを作ったのはいったいどんな人なのだろうね、と呟きました

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8074h/>

お花畑の国

2010年10月15日22時38分発行